

◆関東羈旅 (カントウキリヨ) No.32
江戸東京たてもの園(東京都小金井市)

江戸東京たてもの園

秋晴れの休日、ぶらり散歩気分 JR 中央線「武蔵境駅」で下車、江戸東京たてもの園を目指しました。江戸東京たてもの園に隣接する小金井公園に向かう途中、玉川上水に架かる桜橋のたもとには、小説「武蔵野」を発表した国木田独歩の文学碑がありました。独歩の小説で印象深いのは「少年の悲哀」で、架空の物語とはわかっているのですが、実話の様な感じがします。武蔵野の一節が刻まれている文学碑に、明治時代の小説家の足跡を確認したような気がしました。入園料を支払って入った江戸東京たてもの園は、正面出入り口、ビジターセンターがあるセンターゾーンを挟んで東西に分かれています。園内には 30 軒ほど移設された昔の家が立ち並んでいます。明治から昭和初期にかけて日本の政治を担った「高橋是清」の邸宅や、三井八郎右衛門邸などセンターゾーンから西ゾーンは歴史的な建物が多く見応えがあります。のんびりと歩いて散策しながら、東京下町を再現した東ゾーンへ向かいました。

川柳・江戸東京たてもの園にて

- ・絵空事 事実のごとく 書きしるし
- ・東京の 古きたてもの 集めけり
- ・動かない 路面電車を 飾り立て
- ・動乱の 歴史を語る 是清邸

殿ヶ谷戸庭園

東ゾーンには千住元町から移設された銭湯「子宝湯」に、神田から運んできた「万世橋交番」、実際に走っていた都電などが展示されており、昭和の昔懐かしい雰囲気の中で屋台のたこ焼きを味わってみました。東京下町育ちではない筆者も紙芝居を楽しみに走り回っていた頃を懐かしく思い出しました。

散策後は JR「国分寺駅」そばにある「都立殿ヶ谷戸庭園」に向かいました。

典型的な段丘崖の地形に造られた殿ヶ谷戸(とのがやと)庭園は、1929(昭和 4)年から 1974(昭和 49)年まで三菱財閥、岩崎彦弥太氏別邸として利用され、園内にある「次郎弁天池」は野川の水源の一つとなっています。数寄屋造り風の茶室「紅葉邸」は池を見渡すことができ色づきはじめて紅葉を楽しむことができました。

- ・彫刻の 趣深し 子宝湯
- ・下町の 空気漂う 植木鉢
- ・湧水に 姿を映す 薄紅葉(うすもみじ)

お鷹の道

殿ヶ谷戸庭園の散策を楽しんだ後は、国分寺に隣接する「万葉植物園」、「お鷹の道湧水園」、「武蔵国分寺跡資料館」を見学しました。

国分寺でお参りし、全国名水百選に選ばれた「真姿(ますがた)の池湧水群」まで、整備されている散策路「お鷹の道」を散策しました。江戸時代、尾張徳川家のお鷹場だったことに由来して名付けられたとのことで、ホタルが住む川のせせらぎに、どこか田舎ののどかさを感じることができます。

弁天様が祀られている真姿の池の伝説「絶世の美女・玉造小町が重い病を患い国分寺の薬師如来に祈ると一人の童子が現れ、池の水で清めるようお告げがあり、小町が身体を洗うと病が治癒し元の美しい姿に戻りました」があり、このことから「真姿の池」と呼ぶようになったのだそうです。池は閑散とした場所に在るのですが、病気でなくとも「美しくなれる」という伝説があれば、人でのぎわうのでは、と感じてしまいました。

- ・万葉の 花を咲かせる 国分寺
- ・お鷹場の 道は残れど 鷹住まず
- ・元気でも 真姿の池 試したく

「海員だより」